【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成22年10月28日(2010.10.28)

【公開番号】特開2009-77191(P2009-77191A)
【公開日】平成21年4月9日(2009.4.9)
【年通号数】公開・登録公報2009-014
【出願番号】特願2007-244660(P2007-244660)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｂ　10/04　(2006.01)
Ｈ０４Ｂ　10/06　(2006.01)
Ｈ０４Ｂ　10/14　(2006.01)
Ｈ０４Ｂ　10/26　(2006.01)
Ｈ０４Ｂ　10/28　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　 7/10　(2006.01)
Ｈ０１Ｌ　31/10　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｂ　 9/00　Ｙ
Ｈ０４Ｎ　 7/10
Ｈ０１Ｌ　31/10　Ｇ

【手続補正書】
【提出日】平成22年9月13日(2010.9.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
本体ケース２内には、図２に示すような処理手段、例えば光受信回路７が設けられている。この光受信回路７は、光電変換手段、例えば受光素子、具体的にはフォトダイオード８を有している。フォトダイオード８のカソードは、高周波阻止コイル１０を介して電源端子１２に接続され、アノードは、抵抗器１４とコンデンサ１６との並列回路と高周波阻止コイル１８との直列回路を介して基準電位、例えば接地電位に接続されている。即ち、＋Ｖの直流電圧がカソードに供給される逆バイアス状態とされている。このフォトダイオード８に、光信号入力端子４に供給された光信号が供給され、これに応じてフォトダイオード８には、高周波電流が流れ、高周波阻止コイル１８の両端に電圧の形態でテレビジョン放送信号及び緊急告知放送信号が生成される。なお、特開２００７－１５８６６９号公報に開示されているように無バイアス状態で、光信号に対応した高周波電流が流れるように構成することもできる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１７】
また、抵抗器１４の両端間に生成されたテレビジョン放送信号と緊急告知放送信号とは、ＣＰＵ５６に供給され、ここで受光レベルが検知され、予め定められた適正受光レベル範囲内に受光レベルが入っているか判断される。適正受光レベル範囲内に受光レベルが入っているとき、ＣＰＵ５６はＬＥＤ５８を例えば緑色に点灯し、適正受光レベル範囲外に

受光レベルがあるとき、ＣＰＵ５６はＬＥＤ５８を例えば赤色に点灯する。また、適正受光レベル範囲内に受光レベルがあるとき、ＣＰＵ５６は、出力端子４６からの出力のレベルが適正出力レベル範囲内に入るように、ゲインコントロール回路２４、３０、３６でのゲインをＤ／Ａ変換器６０が調整するように、Ｄ／Ａ変換器６０に制御信号を供給する。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２２】

上記の実施形態では、光信号入力端子４を本体ケース２の背面に設けたが、側面、上面または下面に設けることもできる。また、可変減衰器４２の操作部４２ａはスライド型のものを示したが、回転式の操作部を使用することもできる。また、緊急告知用出力端子５４を設けたが、場合によっては不要である。同様に、電源端子１２を本体ケース２の正面に設けたが、電源供給用の配線を壁６２内に布設する場合には、電源端子１２は、本体ケース２の正面以外の面に設けることができる。上記の実施形態では、光受信回路７を設けたが、そのうちのフォトダイオード８に関連する部分のみを設けて、レベル調整等を行っていないテレビジョン放送信号や緊急告知信号を出力端子４６に供給することもできる。